

第 30 回 発電用設備規格委員会 核融合専門委員会 議事録

1. 日 時：2010 年 6 月 18 日（金）13 時 30 分～17 時 00 分

2. 場 所：日本保全学会 7F 会議室

3. 出席者：(委員 10 名、代理者 4 名、欠席者 3 名)

中曽根委員長（東理大）、高橋副委員長（電中研）、寺本（筑波大）、宮委員（保全学会）、鈴木（中部電力）、井岡（東芝）、宮口（IHI）、船越（日鉄鍛）、田戸（一般）、佐藤幹事（原子力機構）

代理者：新見（KHI 古賀代理）、松本（核科研西村代理）、宮野（溶接セ入江代理）、青木（神戸製鋼細井代理）

欠席者：橋爪（東北大）、星出（京大）、野村（関電）

事務局：稲垣、釜田

（以上敬称略）

4. 配布資料

資料 30-1 第 30 回核融合専門委員会議事次第（案）

資料 30-2 第 30 回核融合専門委員会配付資料リスト

資料 30-3 第 29 回発電用設備規格委員会 核融合専門委員会 議事録（案）

資料 30-4 第 52 回発電用設備規格委員会 議事録（案）

資料 30-4-1-1 核融合専門委員会の委員について

資料 30-4-2-1 品質保証・材料分科会の委員について

資料 30-4-2-2 設計・交換技術分科会の委員について

資料 30-4-2-3 溶接・接合・検査分科会の委員について

資料 30-5 発電用核融合超伝導マグネット規格の英訳合本版発行に関する上位機関の承認について

資料 30-6-1 発電用核融合設備規格 超伝導マグネット構造規格に対する規格委員からの参考意見に対する対応案（和文）

資料 30-6-2 発電用核融合設備規格 超伝導マグネット構造規格に対する規格委員からの参考意見に対する対応案（英訳）

資料 30-6-3 発電用核融合設備規格委員会（No. 131）の結果の通知について

5. 議事

（1）午後 1 時 30 分に開会が宣言された。

（2）議事次第の承認、資料の確認（資料 30-1、資料 30-2）

議事次第の説明及び資料の確認が行われ、議事次第が承認された。

(3) 前回議事録案の承認 (資料 30-3)

資料 30-3 に基づき、前回議事録案の紹介が行われ、以下の変更を行うこととなった。

(3-1) 項目(4) 報告事項 (4-3) について議論があり、「小委員会委員長 W. K. Sowder 氏より将来のニーズを踏まえて現在進行中の規格活動について説明があった。」に続く部分を「小委員会はすでに 5 回開催されているが、品質保証に話題が偏っており、今後は構造規格に議論の中心が移されていくことが望まれる。中国、韓国も規格への関与を積極的に考えている状況にあり、日本としても真空容器の規格化も含めて、どのように協力していくか、参加する方向で検討する必要がある。」に変更することとした。

(3-2) 項目(5) 報告事項 (5-1) について、2008 年版が売り切れとなっていたために新しい ISBN をとることとなったとの報告があり、「この場合、環境疲労での……………想定される。」を「この場合、前回発売分が売り切れていたもので、合本として新しく発売することになり、2008 年版という年版はそのままとし、新しい ISBN をとることとなった。」に変更することとした。

(4) 報告事項

(4-1) 規格委員会報告 (資料 30-4)

委員長より資料 30-4 に基づき、3 月 10 日に開催された第 52 回発電用設備規格委員会において、超伝導マグネット規格の和文の編集上の修正を行うとともに、新たに英訳版を作成し、和文・英訳版のセットで 40 部増刷・販売することで承認されたことが報告された。

(5) 委員について

(5-1) 専門委員会 (資料 30-4-1-1)

資料 30-4-1-1 に基づき、核融合専門委員会の再任の承認について審議依頼があった。委員候補の審議が行われ、西村委員、佐藤委員の再任が承認された。

(5-2) 品質保証・材料分科会 (資料 30-4-2-1)

資料 30-4-2-1 に基づき、品質保証・材料分科会の再任の承認について審議依頼があった。委員候補の審議が行われ、西村委員、鈴木委員の再任が承認された。

(5-3) 設計・交換技術分科会 (資料 30-4-2-2)

資料 30-4-2-2 に基づき、設計・交換技術分科会の再任の承認について審議依頼があった。委員候補の審議が行われ、高橋委員、中曽根委員の再任が承認された。

(5-4) 溶接・接合・検査分科会 (資料 30-4-2-3)

資料 30-4-2-3 に基づき、溶接・接合・検査分科会の再任の承認について審議依頼があった。委員候補の審議が行われ、高木委員、古村委員、小嶋委員の再任が承認された。

(6) 審議事項

(6-1) 規格委員からの和文に関する参考意見への対応案について (資料 30-6-1)

資料 30-6-1 に基づき、審議が行われ、以下の対応をとることとした。

- No. 2 については、対応案を「次回改訂の参考とさせていただきます。」に変更する。

- No. 3 については、「過去において 3 つの用語について専門委員会で検討した結果、降伏強さとしたので原案通りとします。将来、他の規格と比較して検討したいと考えます。」に変更する。なお、備考の文は削除する。

なお、資料の中のアンダーラインと蛍光ペン（黄色）表示は、規格には存在しないので削除する。

(6-2) 規格委員からの英訳に関する参考意見への対応案（資料 30-6-2）

資料 30-6-2 に基づき、審議が行われ、以下の対応をとることとした。

- No. 1 については、対応案を「拝承。」 This code or standard was development …… “ を ” This code was developed …… “ とした上で、ご指摘に従って修正します。」に変更する。
- No. 2 については、対応案を「原子力専門委員会にコメントを送付します。」に変更する。
- No. 5 については、対応案を「拝承。」 …, respectively, (改行) where (改行) $x=\cdots$ ” 」と修正します。」に変更する。
- No. 6 については、参考意見欄の下部に記載されている対応案の内容を対応案欄の下部に移動し、その対応案における「Case 1」の説明文の最後尾にある「 $0.5 < x < 1.0,.$ 」の「ピリオド」の前の「カンマ」を削除する。
- No. 8 については、対応案を「本項は ASME Sec. III ND 4233 と同一の趣旨ですので、may が適切です。和文については、次回改訂で検討させていただきます。」に変更する。
- No. 9 については、対応案を「ASME Sec. III NB 4367 の表現を引用して Examination と致しましたので、原案通りとさせていただきます。」と変更する。

なお、資料の中のアンダーラインと蛍光ペン（黄色）表示は、原稿には存在しないので削除する。

(6-3) ITER 超伝導マグネットの技術開発と調達の現状について

- 川重 新見氏より、超伝導マグネットの調達の現状として、受注者側からの製作の状況について報告があった。
- 溶接施工法の合理化等の可能性について議論があった。

(7) その他

次回開催予定

次回専門委員会は 8 月 27 日(金)に開催する。事務局にて調整し各委員へ連絡する。

以上